



お祭り準備中の旧市庁舎のあるレーマー広場



ライン観光船

くある観光立国です。私がドイツをメインとして訪れたのは、1986年の夏休み約1ヶ月間と2001年11月中旬からの2週間でした。

医学生でした1986年の夏休みには、シュトゥットガルトの歯科医師ゲハート(Gehard)宅にホームステイし、ドイツの魅力を堪能しました。

ドイツの空の玄関であるフランクフルトは、中世の面影を残す近代都市。文豪ゲーテの生家や、切妻屋根の美しいレーマーと呼ばれる旧市庁舎などのほか、ちょっと足を延ばせばライン川観光も。ローマ時代からの歴史に彩られた全長1,320kmのライン川は、ローレライやニーベルンゲン伝説があり、ドイツ人にとって心のふ

るさと。スイスに水源を持ち、フランスとドイツの国境からドイツ国内698kmを流れたあとオランダのロッテルダムから北海へ流れ込むライン川は、古くから交通の要所で何度も侵略戦争の舞台になりました。要塞、防塞として建てられて破壊された古城は、ロマンチックな景色を作って観光客を楽しませてくれます。点在する古城とぶどう畑が作り出す美しい風景は、19世紀にロマン派の作家によって褒め讃えられ、またハイネの詩にズィルヒャーが曲をつけた有名なローレライの歌も生まれました。ライン川を行く観光船の多くはマインツーコブレンツ間を往復しており、変化に富んだ美しい風景とともに



ローレライと丘の上の古城 Burg Katz(ねこ城)



町を見下ろす堂々たるハイデルベルク城

に、ローレライの岩山が近づくとローレライの歌も流れます。約 60km に 30 近い古城が残り、この付近の文化的な遺構と自然景観は世界遺産になっています。

ライン川の観光後、フランクフルトの夜は庶民の雰囲気漂うりんご酒の酒場街として有名なザクセンハウゼンで飲み歩き。

シュトゥットガルトへはフランクフルトから

列車で。ハイデルベルグで途中下車。ハイデルベルグは、若者が集う古い大学町。赤砂岩の橋の上から眺める橋門、旧市街のシルエット、山の中腹の古城という光景は天下一品。15年後の2001年に再び訪れましたが、ハイデルベルグ城のテラスから見渡す街の全景は15年前と何ら変わりありませんでした。しかし、列車はドイツが世界に誇る高速列車ICEに(乗り心地も快適に)。



快適な乗り心地のドイツが世界に誇る高速列車 ICE

シュトゥットガルトは、ドイツ南西部の経済の中心地で、バーデン・ヴュルテンベルグ州の州都。ネッカー川が流れ、ぶどう畑や森に囲まれ

た盆地にあり、黒い森 (Black-Forest) の町々を訪ねる基点にもなっています。町を歩くと、華麗な旧宮殿、バロック様式の新宮殿、近代的な州立絵画館、バウハウス様式のヴァイセンホーフ集合住宅、世界で最初のテレビ塔など、数多くの素晴らしい建築物を目にします。また2つの自動車博物館(メルセデス・ベンツ博物館とポルシェ博物館)もあります。大型デパートをはじめパッサージュや高級専門店が並ぶドイツ最長の歩行者専用道路ケーニヒ通りは1kmもあり、ドーレ夫人のショッピングのお供は疲れしました。そして何よりも驚いたのは、初老のドーレ夫人が運転するベンツがアウトバーンを200km/h以上で疾走することでした。

黒い森というロマンチックな名前で呼ばれるシュヴァルツヴァルト地方の観光は、長男のウォルフガングにカールスルーエとバーデン・バーデンに、ゲハートにはスイスとの国境の町コンスタンツにある保養地ボーデン湖に連れてってもらいました。カールスルーエにある古い歴史を誇る工科大学では多くの学生が学んでいます。夕方からは学生で賑わう洒落た酒場へと。バーデン・バーデンはローマ時代からの由緒ある温泉町。ここにはドストエフスキー、トルストイ、ブラームス、リストからドイツ皇帝、ロシア貴族も訪れた200年にも及ぶドイツ最古の



シュロス公園とシュトゥットガルト中央駅

歴史を誇るドイツ最大のカジノがあります。フォーマルな服装(男性は背広,ネクタイ着用)に着替えて入場し,まずはスロットマシンからプレイを。世界で最も美しいと言われるカジノやブランド品を集めたショッピングアーケード,世界有数のコンサートホールなど,高級温泉地のバーデン・バーデンには保養と娯楽のための施設が充実しています。

滞在中はゲハートと古城観光やゴルフをしたり,友人のUボートの元艦長と一緒に古めかしい居酒屋で飲んだりしました。酒席でUボートの元艦長から「今度はイタリア抜きでやろうな」とブラックジョークを言われ,一瞬ドッキリ。ドイツ人は日本人と同様,客人を連れて観光するので(米国人は行き方を教えるだけ),ゲハートにはスイスアルプスやフランスのパリにも連れていってもらいました。

ドイツは地方ごとに魅力的な町が点在しており,各街道が観光ルートです。私は一部ながら『ロマンチック街道』『ファンタスティック街

道』『古城街道』を観光しました。そこで,これらの街道を簡単に紹介します。

『ロマンチック街道』はドイツ観光の人気ナンバーワンのルートで,ヴュルツブルグからノイシュバンシュタイン城までの約350km。城壁に囲まれた赤屋根の町,のどかな田園風景,山麓の朝霧に浮かび上がる白亜の城,石畳の坂,木組みの町並みと中世の世界を体験できます。ハイライトは,ローテンブルグとノイシュバンシュタイン城。ローテンブルグは別名「中世の宝石」と呼ばれ,山の上の城壁に囲まれた町並みは,中世にタイムスリップしたようです。ノイシュバンシュタイン城は,かつてバイエルン国王ルートヴィヒが「余が17年の歳月をかけて自己の夢を実現させよう」と建てた,白亜の美しい城。外観はディズニーのシンデレラ城のモデルになり,内部はワーグナーの影響を強く受け,全ての部屋が歌劇のワンシーンのように美しいです。



シンデレラ城のモデルになったノイシュバンシュタイン城

『ファンタスティック街道』はハイデルベルクからボーデン湖までの約 400km。高級温泉保養地バーデン・バーデンや自動車誕生の町シュトゥットガルト、ネッカー川沿いの美しい大学町チュービンゲン、カッコウ時計のふるさとと黒い森を抜けて花の島マイナウまで、違った魅力を持つ町々が並ぶ豪華な街道です。

『古城街道』は宮殿の町マンハイムから、ドイツ最古の大学町ハイデルベルク、風光明媚なネッカー溪谷、クリスマスマーケットで有名なニュルンベルク、旧市街が丸ごと世界遺産のバンベルク、ワーグナーの音楽祭で知られるパイロイトまでのルートです。街道沿いには華麗なバロックの宮殿や堅固な中世の城などが点在し

ます。

そのほか、ゲーテやニーチェ、森鷗外が学んだライプチヒ大学のあるライプチヒからフランクフルトまで東西ドイツを結ぶ約 380km の『ゲーテ街道』、グリム兄弟が誕生したハーナウから音楽隊で有名なブレーメンまで約 600km の『メルヘン街道』などがあります。

ゲハート宅には次男のエッケンハートとその妻子も同居しており、大家族でいつも賑やかでした。翌年の夏休みにも欧州旅行の途中で数日間訪問しましたが、家族皆変わりなく大歓迎されました。あれから 20 年、ゲハート一家の皆さんはどうしているのでしょうか…



Gehard 宅で一家の皆さんと記念写真

2001 年 11 月にデュッセルドルフで第 21 回世界病理学・臨床検査医学会連合 (WASPaLM) の総会が開催されました。この総会で、森三樹雄先生が日本人として 2 人目となる WASPaLM の会長 (第 19 代会長) に就かれました。私は総会に参加するとともに、ベルリン、ハイデルベルグ、ボン、ケルンとワインの産地モーゼル溪谷を観光してきました。そして帰りには、チェコ、

オーストリア、ハンガリーの 3 カ国に寄り道も。

ノルトライン・ヴェストファーレン州の州都デュッセルドルフは、ハイネを生んだ緑豊かな大商業都市。町の中心は、市民からケーの愛称で呼ばれるケーニヒスアレー。幅 82m の大通りで、まん中にお堀をはさんで、両側には気持ちのよい並木道が続いています。ここはドイツで最も多くの日本人が暮らす町だけに、数多くの



お堀をはさんで両側に並木道が続く町の中心ケーニヒスアレー



ベルリンの陸の玄関ツォー駅

日本料理店があります。また居酒屋やレストランで、樽から直接注がれる名物アルトビールが楽しめます。特に戸外で味わうアルトビールは最高！

W杯ドイツ大会の決勝戦を行う地ベルリンは、激動するドイツ現代史の象徴として輝くメトロポリス。第二次世界大戦に敗戦後、ベルリンの町は東西に分割されました。そして1961年8月13日、ベルリンには一夜にして「壁」が築かれ、以来28年間壁が壊れる日は永遠に來ないかのように思われていました。しかし1989年

11月9日、突然ベルリンの壁に穴があきました。翌年東西ドイツは再統一を果たし、ベルリンは再び首都の座に返り咲いたのです。まだいたるところに激動の歴史が残されていますが、次々と新しいカルチャーを生み出し、いつも何か新しいものが発見できる街ベルリン、今、世界で最もホットな街といわれています。市内には東西ドイツ統一から8年かけて大改築された連邦議会議事堂の中央ドームをはじめ、ブランデンブルク門、ベルリン大聖堂、多くの博物館、歌劇場などが点在しています。「新生ベルリン」と



金色に輝く女神がベルリンを見守る
戦勝記念塔ジークェスゾイレ

して特に有名なのは、著名な建築家により多くの近未来的建物が建ち並ぶポツダム広場です。「ベルリンの富士」と呼ばれるソニーセンターは、隣のダイムラーシティと並ぶ観光名所。個性的な建物を眺めるだけで「新しいベルリン」を満喫できます。一方、古きよきベルリンを訪ねたいなら、まずは道幅が60mもあるウンター・デン・リンデンの通りを闊歩してみても。ベルリンのシンボル、ブランデンブルク門もこの通りの西端に位置します。5つの博物館が集まる博物館島もある市街は夜明けまで開いているのみの市や、300以上のバー、7,000軒以上の居酒屋などで賑わっています。ショッピングはエレガントなデザインのモードやトレンドな商品、アンティークの専門店だけでなく、多くのショッピングセンターでも楽しめます。ベルリン市内の公共交通機関にはSバーン(近郊電車)、Uバーン(地下鉄)、バス、市電などがありますが、市電が走るのは旧東ベルリン地区だけです。



改修工事中の統一ドイツの象徴ブランデンブルク門



ベートーベンの家と中庭



ケルンのシンボル大聖堂

ボンは第二次世界大戦後から 1999 年まで、ドイツ連邦共和国の首都として発展してきました。音楽ファンにはベートーベンの生まれた町といった方が通りがいいでしょう。ここにはルートヴィヒ・ヴァン・ベートーベンが生まれてから 22 歳でウィーンに活動の場を移すまで住んでいた生家があります。内部は記念館としてベートーベンが使用した楽器や直筆の楽譜、補聴器、家具などが展示されています。

ローマ時代からの古い歴史を誇る文化都市ケルンには、貴重な文化遺産が溢れています。ケルンは 2000 年の歴史を誇るとともに、独自の方言とビール文化を持つライン河畔の大都市。フレッシュなケルンビールが飲める旧市街の居酒屋の雰囲気は、ライン地方独特のものがあります。高さ 157m、奥行き 144m、幅 86mもあるこの町のシンボル、大聖堂の威容に感動！ 壮大なゴシック大聖堂は世界遺産に登録され、年

間 600 万人が訪れます。大聖堂のほか、市内に点在する 12 のロマネスク教会、高さ 61m を誇るルネッサンス様式のケルン市庁舎も見逃せません。また、ルートヴィヒ美術館、ヴァルラフ・リヒャルト博物館、ローマ・ゲルマン博物館、シュヌットゲン博物館など 30 を超える美術館や博物館のある文化都市でもあります。町の中心にあるホーヘ通りはドイツ屈指のショッピングストリートで、エーレン通りやブライテ通りにはブティック、ミッテル通りやブファイル通りにはデザイナーブティックが軒を連ねています。オーデコロンは、フランス語で「ケルンの水」という意味。オペラハウスの向かい側に『4711』という店があります。この店は 1792 年にグロッケン通りで創業。その 2 年後、ケルンはナポレオン軍に占領され、店の住所が 4711 番地に変更させられました。その番地が店の名になり、ナポレオン軍の兵士が好んで、妻や恋

人のためにフランスに持ち帰ったことから世界中に広まりました。建物内部には博物館も併設されています。発祥の地でオーデコロンをお土産に。

ドイツワインの生産地域は、ライン川の本流、支流に沿って厳密には 11 の原産地に区分整理されていますが、大まかにはラインワイン、モーゼルワイン、フランケンワイン、バーデンワインの 4 つ。日本でも人気のある細目の緑色のビンにつめられているモーゼルワインは、風光明媚なモーゼル渓谷の斜面を利用してつくられたもの。新鮮でフルーティでさっぱりしているので、ワインに慣れていない人にも飲みやすいです。

ドイツ人にとってクリスマスは、1 年をしめくくる最大の行事。そしてクリスマス・イブの前の約 4 週間、ドイツ各地で開催されるクリスマスマーケットは、ドイツ人が最も楽しみにしている露天市。滞在中にデュッセルドルフのクリスマスマーケットが始まり、色とりどりのイルミネーションの中、ソーセージや砂糖菓子の甘い香りに包まれた、クリスマスマーケットを歩くことができました。屋台で売られているプラム人形や人形が動くクリスマス・ピラミッドは、とてもメルヘンチック。そしてグリュウワインは、クリスマスマーケットには欠かせない飲み物です。温めた赤ワインにシロップやシナモンなどの香料をミックスしたのがグリュウワインで、飲めば体が暖まり寒さもふっとびます。クリスマスマーケットには、ドイツの冬の旅の楽しさがギュッとつまっています。是非メルヘンの国のクリスマスに足を運んでみては如何ですか。

ドイツ紀行のおしまいは、第 18 回 W 杯ドイツ大会に振り、世界規模で人類のために活躍したドイツイレブンを(ドイツの偉人たち 11 名)。

[GK] R・コッホ(1843~1910)：伝染病を研究し、結核菌、コレラ菌を発見。ノーベル医学賞を受賞(1905)。

[DF] A・シュバイツァー(1875~1965)：アフリカで医療活動に尽力。ノーベル平和賞を受賞



クリスマスマーケットには欠かせない
飲み物グリュウワイン

(1952)。

[DF] W・レントゲン(1845~1923)：X線を発見。最初のノーベル物理学賞を受賞(1901)。

[DF] A・アインシュタイン(1879~1955)：20世紀最大の科学者。「光量子説」でノーベル物理学賞を受賞(1921)。

[MF] J・S・バッハ(1685~1750)：バロック音楽を集大成して「近代音楽の父」と呼ばれる。

[MF] L・V・ベートーベン(1770~1827)：古典派音楽を完成し、ロマン派音楽への道をひらいた。「第九」など。

[MF] W・R・ワーグナー(1813~1883)：楽劇を創始した革新音楽家。「ニーベルングの指輪」など。

[MF] R・シューマン(1810~1856)：ロマン派の作曲家。伴侶クララとの夫婦愛も有名。

[FW] J・W・V・ゲーテ(1749~1832)：世界三

大文豪の一人。「若きウェルテルの悩み」「ファウスト」など。

〔FW〕アンネ・フランク(1929～1945)：ナチスから逃れて綴った「アンネの日記」が戦後に発表され、感動を呼ぶ。

〔FW〕H・シュリーマン(1822～1890)：「トロイの遺跡」を発掘した考古学者で冒険家。

おまけで、チェコのプラハ、オーストリアのウィーン、ハンガリーのブダペストを簡単に紹介します。

プラハでは、ロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、バロック、アール・ヌーヴォーなど中世以来のあらゆる建築様式を見ることができます。ヨーロッパで最も「中世の雰囲気」が感じら

れるこの町を、足の向くままに歩いてみました。プラハは、それほど大きな町ではありません。町は大きく10区に分かれており、見どころの殆どは1区に集中しています。1区とはヴルタヴァ川にかかる最古の橋カレル橋を中心に、半径2kmくらいの範囲で東西両岸に広がる地域です。またプラハの概略をつかむには、市街の西にあるペトシーンの丘に登るのが一番です。雄大に流れるヴルタヴァ川の両岸に広がる中世そのままの町並みの中に塔が林立する様は、まさに「百塔の町」の名にふさわしいと感じました。

「音楽の都」とも「森の都」とも称される古都ウィーンは、ハプスブルク帝国時代の栄華が残り、多様な芸術が交差する町です。ウィーンは、リンクと呼ばれる環状道路を中心に、放射状に郊



車両通行止のカレル橋はいつも大賑わい



絵のように美しいプラハ城と赤瓦の家並み



圧倒的な迫力でそびえ立つシュテファン寺院

外へ広がっています。見どころが集中しているのはリンク内と、リンク沿いの一部です。リンク沿いを走るトラムでリンクを一周することはできますが、徒歩約1時間で一周できるので、歴史の深さを感じながらリンクに沿って歩いてみました。

町の中央を悠々とドナウ川が流れるブダペストの町は、川を挟んで西側をブダ、東側をペストと呼び、それぞれに異なった景観を有しています。ブダ側はいくつもの丘が連なる丘陵地帯。王宮をはじめとする歴史的な建物に加え、邸宅の並ぶ落ち着いた家並みと豊かな自然が広がっています。中世の面影を残す王宮の丘や町の眺望が素晴らしいゲッレールトの丘が観光ポイント。ペスト側は、山がちなブダ側とは対称的に平坦な大地が広がっており、ビジネス街、官庁街、繁華街、学生街などがひしめきあう商業や政治の中心地です。聖イシュトヴァーン大聖堂や国会議事堂、英雄広場が観光ポイント。そして、ブダペストは世界でも有数の温泉都市。粉雪舞う初冬の朝、もやもやとたつ湯煙が、ドナウの都を柔らかく包み込んでいました。



ドナウ川に面したブダ側の王宮



ペスト側のヘそ英雄広場

今なお中世の香りが漂うドイツや中欧の国々は、夏、冬どちらも深い魅力に包まれていまし

た。現代から中世へ、一步踏み込んでみませんか？